

今年は、寒さの到来が昨年より少し早いようですが、皆様におかれてはお元気でお過ごしでしょうか。

10日にストックホルムで本年のノーベル賞授賞式が行われ、ノーベル化学賞を京都大学の北川進京都大学理事・副学長、高等研究院特別教授が、ノーベル生理学・医学賞を大阪大学の坂口志文免疫学フロンティア研究センター特任教授が受賞されました。今回の受賞にて、日本の自然科学3賞（生理学・医学、物理学、化学）におけるノーベル賞受賞者は計27人となります。人類への貢献を称えるノーベル賞を日本の研究者が受賞されたことは、日本の研究水準の高さを世界に示すものであり、大きな励みとなるものです。

今年も、日本に関係する様々な分野の方々にお話を伺うと共に、日本の諸側面の紹介行事等において関係者の方々にお世話になりましたことに深く感謝申し上げます。今年最後のメッセージになるところ、どうぞ皆様が良いお年をお迎え下さいますことを心よりお祈り申し上げます。

#### ● スキート・ケベック州国際関係・仏語圏大臣表敬

12月16日、今年9月に就任されたクリストファー・スキート国際関係・仏語圏大臣を表敬しました。私の方より、邦人保護への協力を要請すると共に、日本とケベックのつながりについて説明しつつ、経済、文化、人的交流など様々な側面について関係を強化していきたい旨述べました。



(11月)

#### ● モントリオール国際旅行博

7日、本年も本件旅行博の視察に行って参りました。初日の金曜日ではありましたが、すでに多くの方々が賑わっていました。今年も、日本はカナダ人の人気の旅行先の一つであり、JNTOがとりまとめる日本関連ブースは昨年の1.5倍に面積を拡げての広報となりました。展示場のほぼ中央に置かれた我が国ブースはひときわ大きく、来場者の方々が、例えば東京の鉄道路線図を見ながら具体的な質問をされているなど、日本への深い関心がうかがわれました。



●キリオン・ケベック州政府首席科学顧問による講演会

13 日、レミ・キリオン・ケベック州政府首席科学顧問による総領事団を対象とした講演会に出席しました。キリオン顧問は、日本での STS フォーラムへ何度も出席される等知日派です。最近のケベック州における関心事項の一つとして研究セキュリティが議論に上ると共に、日本との関係ではゲノム医学にかかる京都大学・マギル大学の協定の意義について言及されていました。本件講演会を企画いただいたケベック州国際関係省（MRIF）に感謝します。

●レ・グランバレエ・カナディアン

18 日、モントリオール所在のバレエ団であるレ・グランバレエ・カナディアン（Le Grand Ballet Canadien）のイヴァン・カバラリ芸術監督らとお会いしました。同バレエ団には、日本人のプリンシパル・ダンサー（主役級を務められるダンサー）も 3 名所属しておられて、当地における日本人の方々の活躍振りをこの分野に於いても再認識しました。

●巡回展「構築環境：もう一つの日本ガイド」

19 日、ケベック大学モントリオール校（UQAM）デザインセンターにおいて当館と国際交流基金が共催する巡回展「構築環境：もう一つの日本ガイド」のオープニングセレモニーが行われ、高久首席領事が挨拶しました。同展示は、地理的に多様で、多くの自然災害に見舞われてきた日本において、人々が自然環境とどのように対話し格闘してきたか、どのように地域性を継承し創造してきたかという観点から、日本各地の建造物を取り上げ、従来あまり紹介されてこなかった日本の一面を紹介しています。初日には、日本の建築に関心を持つ一般客や UQAM の学生等、多数が来館しました。

同展示会は来年 1 月 25 日まで開催していますので、是非お立ち寄りください。

<https://centredesign.com/environnement-bati-un-guide-alternatif-du-japon/>





## ●「カケハシ・プロジェクト」

26 日、大西洋平外務大臣政務官は、外務省の対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」で訪日中のカナダ人若手リーダーによる表敬を受けました。ケベック・日本ビジネスフォーラム (QJBF) のアナイス・ニュグエン会長も今回の訪日プログラムに参加されました。冒頭、大西政務官から、一行の訪日を歓迎した上で、日本とカナダは、インド太平洋地域の重要な戦略的パートナーである旨述べるとともに、今回出会った方々との絆を大切にし、一行が日本とカナダとを繋ぐ「カケハシ」となることを願う旨述べました。一行からは、今回の招へいに対する謝辞が述べられるとともに、訪日の印象について述べられました。また、両国の経済関係や今後の日・カナダ協力の方向性について質問が寄せられました。



(参考) 対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」

北米地域の優秀な青年を対象に、日本に対する関心と理解を向上させ、また、プログラム経験をいかした活動をしてもらうことで、親日派・知日派を発掘・育成し、我が国の外交基盤を拡充することを目的とした事業。参加者の専門性、関心分野に沿って、政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策等に係る対日理解を促進し、参加者からの対外発信の強化を図る。

(12 月)

## ●G 7 産業・デジタル・技術大臣会合

8 日～9 日、モントリオールにて、G 7 産業・デジタル・技術大臣会合が開催され、日本からは、井野経済産業副大臣、堀内総務副大臣、今枝デジタル副大臣が出席されました。G 7 首脳会議の主要な成果を踏まえ、会合では AI や量子といった先端技術のガバナンス・産業利用・競争力強化とそれらの技術の基盤となる DFFT の重要性、重要物資のサプライチェーン強靱化等について議論が行われ、閣僚宣言が採択されました。



## ●高齢化に関するケベック・日本ウェビナーの開催

8日、ケベック州国際関係省及び同州政府在日事務所が、日本とケベックが共通に抱える課題である高齢化について議論するためのウェビナーを開催しました。日本からは、厚生労働省、国立長寿医療研究センター、ケベックからは、保健・社会サービス省、高齢化研究ネットワークに所属される専門的知見を有する方々が登壇され、60人を超える参加者を得て、質の高い議論が行われました。昨年11月、ベランジェ・ケベック州保健・高齢者担当大臣と少子・高齢化等について意見交換を行わせていただいたところ、高齢化を巡る課題が日本とケベックで驚くほど似ていることがわかりました。今回、そのフォローアップとしてこのウェビナーが行われたことは、日本とケベック関係の深化として大変喜ばしいことです。このウェビナーをきっかけに、両者の間で、高齢化を巡る知見・経験の共有や協力が深まることを願っています。



Webinaire de lancement  
**Recherche et politiques publiques : des ponts entre écosystèmes**  
Québec: Lun 8 déc. 2025 19:00-21:00 EST | Japon: Mar 9 déc. 2025 09:00-11:00 JST  
Événement en ligne sur invitation  
Interprétation simultanée français-japonais

**Programme**

19:00 - 19:10 | Mot de bienvenue et allocutions d'ouverture

19:10 - 20:10 | Partie I – Présentations : Priorités de la recherche et des politiques publiques sur le vieillissement

**Japon**

M. Hiromasa Arai - Président, National Center for Geriatrics and Gerontology (NCGG)  
M. Shin Nomura - Directeur de la stratégie sur la sénescence, Division des politiques sur la sénescence et la promotion des soins de longue durée communautaires, Bureau des services aux personnes âgées, ministère japonais de la Santé, du Travail et des Affaires Sociales (MHLW)

**Québec**

Mme Sylvie Balleville - Directrice, Réseau québécois de recherche en vieillissement (RQRV)  
Mme Geneviève Landry - Sous-ministre adjointe et secrétaire aux affaires, ministère québécois de la Santé et des Services Sociaux (MSSS)

20:10 - 20:50 | Partie II – Discussion : Des défis communs à la collaboration

Table ronde explorant les défis communs et les occasions de collaboration, suivie d'une période de questions interactive avec les participants

20:50 - 21:00 | Mot de clôture et prochaines étapes

**Réservez votre place**  
Inscrivez-vous en cliquant ici - Participez à la discussion et contribuez à co-créer l'avenir de la collaboration Québec-Japon en matière de vieillissement !

**Contact**  
Pour toute question ou information complémentaire, veuillez contacter:  
Mme Adèle De Marre  
adele.demarre@mss.gouv.qc.ca



## ●「在加日系人リーダー招へい」プログラム

11日、大西洋平外務大臣政務官は、外務省の令和7年度「在加日系人リーダー招へい」プログラムにて訪日中の日系カナダ人一行の表敬を受けました。モントリオール日系文化会館の活動にも積極的に関与されているトビー・キショ・キムラ全カナダ日系人協会ケベック支部副会長も今回の訪日プログラムに参加されました。冒頭、大西政務官から、カナダ各地の日系コミュニティで主導的役割を果たされている一行の来訪を歓迎するとともに、訪日を通じて日本に対する理解を深め、日本とのつながりが強まることを期待する旨述べました。一行は、それぞれ日系コミュニティにおける活動を紹介し、外務省による招へいに感謝している旨の発言がありました。これに対し、大西政務官から一行の日頃の活動への謝意を表明したほか、日本とカナダは様々な分野で強固な関係を構築しており、更に協力を進めたいと述べました。大西政務官と一行は、終始和やかな雰囲気の下、カナダの日系コミュニティの状況や文化交流を始めとした日加関係などについて意見交換を行いました。



### (参考)「在加日系人リーダー招へい」プログラム

外務省は、在加日系人社会との関係強化を目的に、各界で活躍する在加日系人指導者を毎年1週間程度招へいし、政府関係者、有識者、経済関係者等との意見交換を通じた相互理解の機会を提供するとともに、文化施設等の視察を通じて日本への理解を図る。平成20年度に開始し、今年度を含めてこれまでに計75名が本招へいプログラムを通じて訪日。

●モンクトリアル日系文化会館主催シニアプログラム・ドロップイン・クリスマスランチ

18 日、昨年に引き続き、モンクトリアル日系文化会館のシニアプログラム・ドロップイン・クリスマスランチにお招きいただきました。井上前会長、シニアの方々、多くのボランティアの方々の企画で、上記トビーさんのサックス演奏、コンテンポラリー・ダンス、民謡踊り、ピアノと歌唱、太鼓など心のこもったパフォーマンスが行われました。年末の寒さが増す時期に心温まる会を催して下さった会館の方々に感謝します。



●モンクトリアル日本商工会年次総会

19 日、モンクトリアル日本商工会の年次総会が行われました。会員数が少しずつ増えているとのことで、新規会員を含む商工会のメンバーの方々にご挨拶申し上げる良い機会となりました。総領事館は、商工会の発展を祈念するとともに、引き続き日本企業支援に努めてまいります。



\*上記の他にも、日本やカナダの様々な方や団体の関係者と意見交換などを行うことができ、大変有意義な期間でした。

\*本メッセージは仏・英語にても、メルマガ読者に配信しています。